

令和3年度 行政評価の取組結果（港湾空港局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度	R3年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)		決算額 (千円)	事業 評価	評価の理由		局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
II-1-(4)-④ 総合的な災害対策の推進	1	⑬	海岸（高潮）事業	整備課	災害に強い都市づくりの一環として、高潮等の災害から市民の生命や財産を守るために、臨海部において護岸整備を行う。	新門司北地区北護岸整備による後背地防護面積	—	目標 単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	防護面積 74ha (R6年度)	173,042	3,000	102,429	5,650	順調	新門司北地区における護岸整備工事をおおよそ計画どおりに進めている（目標：325m、実績：215m）ことから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 新門司北地区における護岸整備工事が計画通りの工程で進んでいるため、「順調」と判断。 【課題】 本市の高潮対策の重要性を継続して国に伝え、予算の確保に努めている。	高潮時における立地企業の安全性を確保するために、いち早く事業を完了させるよう努める。
II-1-(4)-⑤ 公共施設などの耐震化の推進	2	⑨	国直轄事業負担金（耐震強化岸壁整備）	計画課	大規模震災時にも物資等の海上輸送機能を確保するため、耐震強化岸壁を整備する。	臨海部防災拠点を構成する耐震強化岸壁の整備（西海岸地区）	—	目標 単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	耐震強化岸壁の整備（R7年度）	315,000	0	0	2,900	順調	本事業は、国直轄事業により、西海岸地区耐震強化岸壁整備として行われている。令和2年度補正予算により整備は令和3年度においても継続的に行われており、令和7年度完了に向けて着実に事業が進められているため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 本市では、耐震強化岸壁を5箇所整備する計画であり、すでに2箇所の整備が完了している。現在整備を行っている西海岸地区では、令和2年度補正予算により整備は令和3年度においても継続的に行われており、令和7年度完了に向けて着実に事業が進められているため、「順調」と判断。 【課題】 事業主体である国に対して、引き続き、適切な予算配分を求める必要がある。	事業主体である国に対して、事業の早期完了を要望するとともに、国との連携を密にし、事業の進捗を図っていく。
III-1-(2)-③ 市民に親しまれる水際線・農山村風景づくり	3	①	海辺の憩いにぎわいTRIAL PROJECT	計画課	これまで整備した海辺空間を活用し、市民の憩いや安らぎ、地域のにぎわい創出を図る。	市民が、北九州市の海辺や港について満足している割合	52.1% (R1年度)	目標 前年度比増 (R2年度： 55.2%)	実績 56.2 %	更なる市民満足度の増加（R5年度）	—	2,000	1,541	9,300	順調	市民が北九州市の海辺や港について満足している割合が前年度と比べて増加したことから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 市民が北九州市の海辺や港について満足している割合が前年度と比べて増加したことから、「順調」と判断。	他のにぎわいづくり関連事業のなかで実施していくことから、本事業は令和3年度で終了した。

令和3年度 行政評価の取組結果（港湾空港局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度	R3年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度		R3年度		中期 目標		決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)		事業 評価	評価の理由
IV-1-(3)-① 成長性、経済波及効果の高い産業の重点的誘致	4	⑦ ⑧ ⑨ ⑬	響灘洋上風力発電拠点化推進事業	エネルギー産業拠点化推進課	<p>港湾空港局では、響灘地区のポテンシャルを活かし、平成23年度より風力発電関連産業の集積を図る『グリーンエネルギーポートひびき』事業を進めており、本事業の更なる推進にあたっては、今後拡大が見込まれる洋上風力発電に対応した環境整備が急務である。</p> <p>そこで、響灘洋上ウインドファームの形成をインセンティブに関連産業の集積を進め、国内における“風力発電関連産業の総合拠点”の形成を目指す。</p>	響灘地区総合拠点の産業用地利用率	31.7% (R2年度)	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	80% (R6年度)	760,171	1,096,650	1,863,479	119,500	順調	<p>核となるインフラである基地港湾は、着実に整備を進めており、企業誘致のための営業活動についても、目標を上回ることができた。また、響灘洋上風力発電施設の設置・運営事業者公募において選定された事業者により、事業は順調に実施されており、「順調」と判断。</p>	<p>【評価理由】 風力発電関連産業の総合拠点の形成については、事業が確実に進捗している。</p> <p>また、本市港湾インフラを活用する企業への積極的な訪問や、既存の進出企業の用地拡張等のニーズ対応を行った結果、臨海部産業用地への企業立地が進んだため、「順調」と判断。</p> <p>【課題】 関係者等と調整・連携の上、洋上風力発電事業や産業集積を確実に進めていく必要があるが、臨海部産業用地においては分譲可能な用地が不足している。</p>	<p>響灘洋上ウインドファーム事業については、引き続き円滑かつ確実に事業を進められるよう、設置運営事業者等との連絡、調整等を行う。</p> <p>加えて、令和2年末策定の「グリーン成長戦略」における導入目標の明示により、我が国の洋上風力発電市場の急拡大が見込まれる中、洋上ウインドファーム建設に本市の基地港湾が最大限活用されるよう、引き続き自治体や発電事業者へのマーケティング活動及び利用調整を行う。</p> <p>さらに、風力発電関連産業の拠点形成に向けては、風車メーカーのサプライチェーンが構築された際、地元企業が組み込まれるよう官民一体となったセールスを行う。</p> <p>また、企業誘致及び埋立地整備事業については、調整中の用地等の早期活用を念頭に計画的な分譲地の確保について検討を行う。</p>
							響灘地区総合拠点利用ファーム数 (予定含む)	1案件 (R2年度)	目標	単年度目標 設定なし									
IV-4-(3)-① 国内外からの観光の推進	6	⑧	クルーズ船の誘致	クルーズ・交流課	<p>コンベンションへの出展や、代理店や船社への情報提供による、国内外のクルーズ船の寄港を促進する。また、クルーズ船寄港時にはおもてなしイベント等を実施する。</p>	クルーズ船の寄港数	年間寄港回数：12回 (H28年度)	目標	45 回	40 回	45回 (R7年度)	32,460	16,700	11,764	27,100	遅れ	<p>国内クルーズの運航は徐々に再開されつつあるが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を今も受けており、令和3年度本市への寄港は4回となっている。</p> <p>また、国際クルーズの運航は、令和2年3月の閣議了解により、海外からの旅客運送を停止するよう海運事業者に対して要請されており、外国船の寄港はない。</p> <p>以上のことから、「遅れ」と判断。</p>	<p>【評価理由】 令和3年度は国内クルーズの運航が徐々に再開された。また、コロナ収束を見据えて、令和5年以降の外国クルーズ船の予約が入るなど、寄港回数の回復が見込まれることから「やや遅れ」と判断。</p> <p>【課題】 国内クルーズの運航は、令和2年10月から邦船によるクルーズが再開された。なお、国際クルーズの運航は、令和2年3月の閣議了解により、海外からの旅客運送を停止するよう海運事業者により要請されている。現時点（令和4年7月末時点）においても要請が継続されており、岸壁の予約は入っているが、受入できない。</p>	<p>安全安心なクルーズ船の受入を目指して、船社や代理店と連携を図りつつ、寄港回数の増加に向けた誘致活動を実施する。</p>
								実績	1 回	4 回									
IV-1-(3)-① 成長性、経済波及効果の高い産業の重点的誘致	5	⑧ ⑨	企業誘致及び埋立地整備事業	物流振興課	<p>臨海部産業団地の分譲を促進するため、充実した港湾インフラや「環境未来都市」「グリーンアジア国際戦略総合特区」など本市の強みを活かすことのできる企業に対し、積極的に誘致活動を行う。</p>	臨海部産業用地への企業立地件数 (H26年度以降の累計)	4件 (H26年度)	目標	41 件	42 件	1件増 (毎年度)	183,016	439,508	373,791	28,450	順調	<p>令和3年度は響灘東地区にて1件、新門司地区において3件の売却を行っており、実績累計が目標累計を上回っていることから「順調」と判断。</p>		
								実績	43 件	47 件									

令和3年度 行政評価の取組結果（港湾空港局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施											【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度		R3年度		中期 目標	予算額 （千円）		決算額 （千円）	事業 評価	評価の理由		局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
IV-4-(3)-②にぎわいづくりによる集客交流産業の拡充	7	⑧	港のにぎわい推進	クルーズ・交流課	広く市民に港や海に親しんでもらい、北九州港の賑わいを創出するため、北九州港内で開催される各種イベントを実施する。	イベント参加者の満足度	80%以上 (H26年度)	目標 90 %	% 以上	90 %	% 以上	イベント参加者の満足度 90%	1,212	32,724	14,816	22,350	順調	【評価理由】 新型コロナウイルス感染症の影響により、市内で多くのイベントが中止となる中、感染症対策を取りながら、開港記念イベント等を実施することができ、参加者の満足度も高かったため、「順調」と判断。 【課題】 賑わいイベント等の実施は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による制限の影響を大きく受けることから、見通しが立てにくい。	順調	令和2・3年と中止が続いていたイベント等についても、徐々に開催が決まっており、令和5年度においても引き続き実施ができるよう準備を進める。その際、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した新しい形態での賑わいイベント等を実施し、北九州港の周知・PRに繋げる。
V-1-(3)-②産業拠点の整備	8	⑧ ⑨	企業誘致及び埋立地整備事業	物流振興課	臨海部産業団地の分譲を促進するため、充実した港湾インフラや「環境未来都市」「グリーンアジア国際戦略総合特区」など本市の強みを活かすことのできる企業に対し、積極的に誘致活動を行う。	臨海部産業用地への企業立地件数 (H26年度以降の累計)	4件 (H26年度)	目標 41 件		42 件		1件増 (毎年度)	183,016	439,508	373,791	28,450	順調	令和3年度は響灘東地区にて1件、新門司地区において3件の売却を行っており、実績累計が目標累計を上回っていることから「順調」と判断。 【課題】 臨海部産業用地においては分譲可能な用地が不足している。	順調	調整中の用地等の早期活用を念頭に計画的な分譲地の確保について検討を行う。
V-1-(3)-③物流拠点の整備	9	⑧ ⑨ ⑩	北九州空港航空貨物拠点化事業	空港企画課	北九州空港の将来ビジョンの柱の一つとして、九州・東九州・西中国3方向からの高速道路の結節点にある優位性を生かし、広域的な物流拠点空港を目指す。また、路線誘致、集貨、創貨、機能強化の取組を推進することにより貨物増を図り、貨物増がこれら取組を加速させる好循環を構築することで、物流拠点化の実現化を図る。	航空貨物取扱量 ※中期目標改訂 (R4年度目標設定時)	—	目標 30,000 +		30,000 +		42,000+ (R6年度)	167,195	531,900	540,138	19,200	順調	想定より貨物取扱量は少なかったが、前年度比42%増加となったため、「順調」と判断。 【課題】 航空貨物については、国際貨物定期便の安定化のため、これまで以上に広範囲の集貨や、更なる需要の掘り起こしに取り組み、北九州空港の特徴を最大限に活かして、予防保全的な対応にまでは至っていないものの、安全性・利便性を維持している。また、老朽化した施設が多数であり、老朽化した施設が多数であり、予防保全的な対応にまでは至っていないものの、安全性・利便性を維持している。その他、港湾計画については、令和5年度の計画改訂に向けて、長期構想検討委員会の開催等、着実に事業は進んでいるため、全体として「順調」と判断。	順調	航空貨物については、国際貨物定期便の安定化のため、これまで以上に広範囲の集貨や、更なる需要の掘り起こしに取り組み、北九州空港の特徴を最大限に活かして、予防保全的な対応にまでは至っていないものの、安全性・利便性を維持している。また、老朽化した施設が多数であり、老朽化した施設が多数であり、予防保全的な対応にまでは至っていないものの、安全性・利便性を維持している。また、老朽化が進む港湾施設については、港湾施設利用者の安全性確保及び利便性向上を図るため、引き続き港湾施設の機能の維持・強化を行う。また、老朽化が進む港湾施設については、引き続き健全な状態を維持し、北九州港の利便性を向上させるため、施設点検を着実に実行するとともに、適切な補修を行う取組を推進していく。
	10	⑨ ⑩	港湾施設整備事業（岸壁、物揚場、道路、橋梁等整備）	整備課	岸壁や道路等の老朽化した港湾施設について、適切な改良を加え、機能の維持・強化を行うことにより、施設利用者の安全性確保及び利便性向上を図る。	港湾施設利用者の安全性確保及び利便性向上	—	目標 単年度目標 設定なし		単年度目標 設定なし		港湾施設利用者の安全性確保及び利便性 向上	317,245	569,190	278,689	5,150	やや遅れ	太刀浦地区の道路改良では、舗装工事を実施した。松ヶ島物揚場の改良は、国の予算が確保できず、未実施となった。響灘西地区の道路整備は、企業の立地状況に合わせて事業を行う必要があるため、未実施となった。以上のことから、全体として「やや遅れ」と判断。		加えて、港湾を取り巻く社会経済情勢の変化に対応し、北九州港の更なる発展を図るため、引き続き港湾計画の改訂に向け事業を継続する。

令和3年度 行政評価の取組結果（港湾空港局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度	R3年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性			
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)		決算額 (千円)	事業 評価	評価の理由		局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	
11	⑧ ⑨ ⑩	北九州港港湾 計画改訂事業	計画 課	港湾を取り巻く 社会経済情勢の 変化に対応する ため、「港湾計画」 の改訂を行い、北 九州港の更なる 発展を目指す。	港湾計画の改訂	目標	—	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	令和5年 度での 港湾計 画改訂	17,026	70,000	67,908	48,000	順調	港湾計画の改訂に向け、予 定通り「長期構想検討委員 会」を開催したため、「順 調」と判断。	局施策 評価	らも要望が多数寄せられてい ることから、適切な維持管理 をさらに推進していく必要が ある。 その他、港湾計画改訂にあ たっては、関係者と綿密な調 整が必要である。		
						実績	—	—	—											達成率
12	⑨ ⑩	競争力のある 港づくり関連 事業（維持管 理等）	港管 課 整備 課	老朽化が進む北 九州港の港湾施設 について、維持管 理を効果的かつ効 率的に行うこと で、物流基盤の機 能を維持し、北九 州港の競争力確保 を図る。	港湾施設の安全性 確保及び利便性の 維持・向上	目標	—	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	港湾施設 の安全 確保及 び利便 性の維 持・向 上	301,328	578,024	381,503	115,075	順調	老朽化した施設を重点的に 点検し、緊急度の高い施設か ら補修を行うことで、施設利 用の安全・利便性を維持して いることから、「順調」と判 断。	局施策 評価			
						実績	—	—	—										達成率	—
V-1- (4)-② 再生可 能エネ ルギー ・基幹 エネ ルギー の創出 拠点の 形成	13	⑦ ⑧ ⑨ ⑬	響灘洋上風力 発電拠点化推 進事業	エネ ルギー 産業 拠点 化推 進課	港湾空港局で は、響灘地区のポ テンシャルを活か し、平成23年度よ り風力発電関連 産業の集積を図る 『グリーンエネ ルギーポートひび き』事業を進めて おり、本事業の更 なる推進にあつて は、今後拡大が 見込まれる洋上風 力発電に対応した 環境整備が急務で ある。 そこで、響灘洋 上ウインドファ ームの形成をイン センティブに関連 産業の集積を進め 、国内における“ 風力発電関連産 業の総合拠点” の形成を目指す。	響灘地区総合拠点 の産業用地利用率	目標	—	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	80% (R6年 度)	760,171	1,096,650	1,863,479	119,500	順調	核となるインフラである基 地港湾は、着実に整備を進め ており、企業誘致のための管 業活動についても、目標を上 回ることができた。また、響 灘洋上風力発電施設の設置・ 運営事業者公募において選定 された事業者により、事業は 順調に実施されており、「順 調」と判断。	局施策 評価	【評価理由】 風力発電関連産業の総合拠 点の形成については、事業が 確実に進捗している。 また、本市港湾インフラを 活用する企業への積極的な訪 問や、基地港湾の整備をはじ め、響灘洋上ウインドファ ームも順調に進んでいる。その 他、基地港湾の顧客となる西 日本エリアの市場開拓や企業 誘致等の協議も進捗しており 「順調」と判断。 【課題】 我が国の洋上風力発電市場 をはじめとする国や業界の動 向に大きく左右されるため、 国や関係者等と調整・連携 し、柔軟に対応しながら事業 を進めていくことが不可欠で ある。	響灘洋上ウインドファ ーム事業については、引き続 き円滑かつ確実に事業を進 められるよう、設置運営事 業者等との連絡、調整等を行 う。 加えて、令和2年末策定の 「グリーン成長戦略」にお ける導入目標の明示によ り、我が国の洋上風力発電 市場の急拡大が見込まれる 中、洋上ウインドファーム 建設に本市の基地港湾が最 大限活用されるよう、引き 続き自治体や発電事業者へ のマーケティング活動及び 利用調整を行う。 さらに、風力発電関連産 業の拠点形成に向けては、 風車メーカーのサプライ チェーンが構築された際、 地元企業が組み込まれるよ う官民一体となったセール スを行う。
							実績	31.7%	31.7%	31.7%										
						目標	—	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	5案件 (R6年 度)										
						実績	1案件 (R2年 度)	1案件	1案件						達成率	—	—			

令和3年度 行政評価の取組結果（港湾空港局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																				
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性				
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度		R3年度		中期 目標	予算額 （千円）		決算額 （千円）	事業 評価	評価の理由		局施策 評価	局施策評価の理由及び課題		
V-2- (1)-① 北九州 空港の 機能拡 充	14	⑧ ⑨ ⑩	北九州空港航 空貨物拠点化 事業	空港 企画 課	北九州空港の将 来ビジョンの柱の 一つとして、九 州・東九州・西中 国3方向からの高速 道路の結節点にあ る優位性を生か し、広域的な物流 拠点空港を目指 す。 また、路線誘 致、集貨、創貨、 機能強化の取組を 推進することによ り貨物増を図り、 貨物増がこれら取 組を加速させる好 循環を構築するこ とで、物流拠点化 の実現化を図る。	航空貨物取扱量	—	目標	30,000	↑	30,000	↑	42,000↑ (R6年 度)	167,195	531,900	540,138	19,200	順調	想定より貨物取扱量は少な かったが、前年度比42%増加 となったため、「順調」と判 断。	【評価理由】 航空貨物については、目標 には達していないものの、前 年度比42%増加となった。 それに伴い、滑走路延長や 第2貨物上屋の建設といった 施設整備も順調に進んでい る。 一方、旅客については、新 型コロナウイルス感染症の影 響が大きく、空港へのアクセ スと共に、目標を大幅に下回 ることとなった。以上のこと から、全体としてやや遅れと 判断。 【課題】 航空貨物については、国際 貨物定期便の安定化のため、 引き続き集貨に努めるととも に、貨物が集積しやすい環境 づくり、空港の機能強化の推 進が必要である。また、旅客 便を利用した航空貨物輸送の 利用促進についても、積極的 な取組を行う必要がある。 旅客については、今後の新 型コロナウイルス感染症の動 向を見ながら、回復期に向け て積極的な取組や働きかけを 行っていく必要がある。 空港へのアクセスについて も同様に新型コロナウイルス 感染症の動向を見ながら、引 続き確実なバス運行に努める	航空貨物については、国 際貨物定期便の安定化のた め、これまで以上に広範囲 の集貨や、更なる需要の掘 り起こしに取り組む。併せ て北九州空港の特徴を最大 限に活かすための機能強化 にも取り組み、物流拠点化 を積極的に進めていく。 旅客については、今後の 新型コロナウイルス感染症 の動向を見ながら、回復期 に向けて路線安定化を図る ため、集客PR等に取り組ん でいく。 空港へのアクセスについ ても同様に新型コロナウイルス 感染症の動向を見ながら から、引き続き確実なバス運行 に努める。	
						※中期目標改訂 (R4年度目標設定 時)		実績	15,384	↑	21,819	↑										3路線 (R4年 度)
						達成率		51.3	%	72.7	%	国際定期路線の維 持・拡大										—
国内定期路線の維 持・拡大	—	実績	0	路線	0	路線	3路線 (R4年 度)															
達成率	0.0	%	0.0	%	国内定期路線の維 持・拡大	—	目標	4	路線	3	路線	200万人 (R6年 度)										
※中期目標改訂 (R4年度目標設定 時)	—	実績	2	路線	2	路線	2路線 (R4年 度)															
達成率	50.0	%	66.7	%	北九州空港の利用 促進のため、エ アポートバスの安 定的な運行確保 等、空港アクセス 利便性の維持・向 上を図る。	—	目標	200	万人	単年度目標 設定なし	200万人 (R6年 度)		338,752	195,500	288,727	19,200	遅れ	新型コロナウイルス感染症 の影響により、国際線、国内 線共に人の流れが大きく落ち 込んだため、「遅れ」と判 断。				
北九州空港利用者 数の増	—	実績	322,783	人	481,505		人															
達成率	16.1	%	—																			

令和3年度 行政評価の取組結果（港湾空港局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	事業 評価	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度	R3年度		中期 目標	予算額 （千円）			決算額 （千円）	評価の理由	局施策 評価		局施策評価の理由及び課題	
17	⑧ ⑪	北九州空港機能強化推進事業	空港企画課	北九州空港の更なる活性化のため、空港機能の強化に向けた調査・検討等を実施する。	北九州空港利用者数の増	—	目標 200 万人 単年度目標 設定なし	実績 322,783 人	481,505 人	200万人 (R6年度)	29,763	15,000	7,540	19,200	順調	北九州空港の滑走路延長計画について、令和3年度は住民参画手続きであるパブリック・インボルブメントが終了した。また、環境影響評価手続きについては、方法書手続きが完了したため、「順調」と判断。				
					航空貨物取扱量の増	—	目標 —	実績 —	—	30,000 + (R4年度)									達成率 —	
V-2-(1)-② 港湾の国際競争力の強化	18	⑧ ⑨ ⑪	北九州港集貨航路誘致事業	物流振興課	国内外の荷動きや物流事業について、企業訪問などにより情報収集を行うとともに、セミナーの開催や様々な媒体を利用したPR及び官民一体となったポートセールス活動などを通じて、北九州港への集貨・航路誘致を行う。	北九州港海上出入貨物取扱量	9,998万 + (H23年)	目標 前年 (9,860万+)比増加	実績 8,845 万 +	9,636 万 +	10,900 万+ (R6年)	36,016	164,464	17,294	50,500	順調	船社や荷主企業に対する北九州港の利用促進に向けた情報提供やPR活動を地元の物流事業者と協働して実施した結果、海上出入貨物取扱量が前年度比8.9%増加したため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 北九州港の利用促進に向けた様々な取組を行っており、航路の増加には至らなかったものの、海上出入貨物取扱量は増加した。 また、太刀浦埠頭用地の整備については、繰越工事となったものの概ね計画的に進んでおり、太刀浦第2コンテナターミナルのコンテナクレーン更新も、計画どおりに進んでいる。 その他、港湾計画の改訂についても、令和5年度に向けて、長期構想検討委員会の開催等、着実に事業が進んでいるため、総合的に「順調」と判断。	引き続き官民一体となって物流事業者や荷主企業、船社等に対してPRを行い、新規航路の誘致やモデルシフトを推進するとともに、他港との競争において魅力ある仕組みづくりに取り組むことで、更なる北九州港の利用促進を図る。 そのほか、荷役作業の安全性確保と効率化を図るため、引き続きコンテナヤード等の整備を実施するほか、港湾計画の改訂にあたっては、港湾を取り巻く社会経済情勢の変化に対応し、北九州港の更なる発展を図るよう、事業を継続していく。
						RORO航路数	4航路 (R1年)	目標 7 航路	実績 5 航路	5 航路	8航路 (R6年)									
20	⑨ ⑪	太刀浦埠頭用地整備事業	港湾課	太刀浦コンテナターミナル内の舗装の損傷が著しい箇所について補修を行うことで、荷役作業の安全性確保と効率化を図る。	荷役作業の安全性確保と効率化	—	目標 単年度目標 設定なし	実績 —	—	コンテナヤード等の整備 (R5年度)	244,791	81,000	74,131	3,650	順調	ターミナル利用者との調整に時間を要したことから繰越工事となったものの、概ね計画的に進んでいることから「順調」と判断。				

令和3年度 行政評価の取組結果（港湾空港局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度 決算額 (千円)	R3年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度		中期 目標	予算額 (千円)		決算額 (千円)	事業 評価	評価の理由		局施策 評価
	21	⑧ ⑨ ⑬	太刀浦第2コンテナターミナルコンテナクレーン更新事業	整備課	耐用年数を超え、老朽化、劣化が顕著なため、安全、安定した設備を提供することを目的とし、コンテナクレーンの更新を行う。また利用促進を図るため、クレーンの大型化も行うもの。	クレーンの更新基数	目標	単年度目標 設定なし	1基目着手	2基目完成 (R6年度)	17,160	499,200	200,739	12,300	順調	コンテナクレーン更新工事は、予定通り工事契約を完了しクレーン製作を開始した。また、付帯工事についても実施設計が完了し、事業計画どおり進んでいるため、「順調」と判断。		
							実績	—	1基目製作中（令和4年度完成予定）									
	22	⑧ ⑨ ⑪	北九州港港湾計画改訂事業	計画課	港湾を取り巻く社会経済情勢の変化に対応するため、「港湾計画」の改訂を行い、北九州港の更なる発展を目指す。	港湾計画の改訂	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	令和5年度での 港湾計画改訂	17,026	70,000	67,908	48,000	順調	港湾計画の改訂に向け、予定通り「長期構想検討委員会」を開催したため、「順調」と判断。		
							実績	—	—									
V-2-(1)-③ 環境配慮型物流の推進	23	⑧ ⑨ ⑪	北九州港集貨航路誘致事業	物流振興課	国内外の荷動きや物流事業について、企業訪問などにより情報収集を行うとともに、セミナーの開催や様々な媒体を利用したPR及び官民一体となったポートセールス活動などを通じて、北九州港への集貨・航路誘致を行う。	北九州港海上出入貨物取扱量	目標	前年 (9,860万+)比増加	前年比増加	10,900万+ (R6年)	36,016	164,464	17,294	50,500	順調	船社や荷主企業に対する北九州港の利用促進に向けた情報提供やPR活動を地元の物流事業者と協働して実施した結果、海上出入貨物取扱量が前年度比8.9%増加したため、「順調」と判断。	【評価理由】 北九州港の利用促進に向けた様々な取組を行っており、海上出入貨物取扱量が増加していることからモーダルシフトが促進されているとみられるため、「順調」と判断。 【課題】 更なる貨物取扱量の増加及び航路の誘致を図るため、利用促進に向けたより効果的な取組を検討して進めていく。	引き続き官民一体となって物流事業者や荷主企業、船社等に対してPRを行い、新規航路の誘致やモーダルシフトを推進するとともに、他港との競争において魅力ある仕組みづくりに取り組むことで、更なる北九州港の利用促進を図る。
							実績	8,845万+	9,636万+									

令和3年度 行政評価の取組結果（港湾空港局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性					
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度		R3年度		中期 目標	予算額 （千円）		決算額 （千円）	事業 評価	評価の理由		局施策 評価	局施策評価の理由及び課題			
V-3-(2)-① 都市基盤・施設の有効活用	24	⑧ ⑩	北九州空港新規路線就航促進事業	空港企画課	北九州市民の利便性向上のため、国内・国際定期便の新規就航及び既存路線の定着を図ることを目標に、路線誘致・利用促進活動を行う。	国際定期路線の維持・拡大	—	目標 7 路線	実績 0 路線	達成率 0.0 %	3 路線	0 路線	0.0 %	3路線 (R4年度)	45,776	49,660	10,546	88,950	遅れ	新型コロナウイルス感染症の影響により、国際線、国内線共に人の流れが大きく落ち込んだため、「遅れ」と判断。	やや遅れ	【評価理由】 北九州空港の旅客については、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、目標を大幅に下回ることとなったものの、海上貨物については、北九州港の利用促進に向けた様々な取組を行っており、取扱量が増加していることから、全体として「やや遅れ」と判断。 【課題】 旅客については、今後の新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら、回復期に向けて積極的な取組や働きかけを行っていく必要がある。 海上貨物については、更なる取扱量の増加及び航路の誘致を図るため、利用促進に向けたより効果的な取組を検討して進めていく。	旅客については、今後の新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら、回復期に向けて路線安定化を図るため、集客PR等に取組んでいく。 海上貨物については、引き続き官民一体となって物流事業者や荷主企業、船社等に対してPRを行い、新規航路の誘致やモーダルシフトを推進するとともに、他港との競争において魅力ある仕組みづくりに取り組むことで、更なる北九州港の利用促進を図る。
					国内定期路線の維持・拡大 ※中期目標改訂（R4年度目標設定時）	—	目標 4 路線	実績 2 路線	達成率 50.0 %	3 路線	2 路線	66.7 %	2路線 (R4年度)										
25	⑧ ⑨ ⑩	北九州港集貨航路誘致事業	物流振興課	国内外の荷動きや物流事業について、企業訪問などにより情報収集を行うとともに、セミナーの開催や様々な媒体を利用したPR及び官民一体となったポートセールス活動などを通じて、北九州港への集貨・航路誘致を行う。	北九州港海上出入貨物取扱量	9,998万 ↑ (H23年)	目標 前年 (9,860万) ↑ 比増加	実績 8,845 万 ↑	達成率 89.7 %	前年比増加	10,900 万 ↑ (R6年)	36,016	164,464	17,294	50,500	順調	船社や荷主企業に対する北九州港の利用促進に向けた情報提供やPR活動を地元の物流事業者と協働して実施した結果、海上出入貨物取扱量が前年度比8.9%増加したため、「順調」と判断。						
VI-3-(1)-② 適正な廃棄物の処理	26	⑨ ⑫	響灘東地区処分場整備事業	整備課	北九州港内の航路・泊地の整備及び維持から発生する浚渫土砂、市民生活や市内中小企業の産業活動から発生する廃棄物等を最終的に処分する海面処分場（響灘東地区処分場）を整備する。	廃棄物処分場の確保	—	目標 単年度目標 設定なし	実績 —	達成率 —	単年度目標 設定なし	—	—	—	1,421,944	503,000	1,874,579	39,500	順調	処分場の護岸築造工事を計画どおりに進めている（目標：120m、実績：463m）ことから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 処分場の護岸築造工事に着手し、計画通りの工程で進んでいるため、「順調」と判断。 【課題】 既存処分場が満杯となるまでに、確実に整備する必要がある。	計画通りに事業を進めるために、各工程について遅滞のないよう進捗管理を行う。
					土砂処分場の確保	—	目標 単年度目標 設定なし	実績 —	達成率 —	単年度目標 設定なし	—	—	浚渫土砂の受入開始 (R5年度)										

令和3年度 行政評価の取組結果（港湾空港局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																	
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度	R3年度	中期 目標		予算額 （千円）	決算額 （千円）		事業 評価	評価の理由	局施策 評価		局施策評価の理由及び課題
VII-2-(2)-① 充実した物流 基盤を活用した物流 振興	27	①	海辺の憩い・にぎわい TRIAL PROJECT	計画課	これまで整備した海辺空間を活用し、市民の憩いや安らぎ、地域のにぎわい創出を図る。	市民が、北九州市の海辺や港について満足している割合	52.1% (R1年度)	目標 前年度比増 (R2年度: 55.2%)	実績 56.2 %	達成率 101.8 %	更なる市民満足度の増加 (R5年度)	—	2,000	1,541	9,300	順調	市民が北九州市の海辺や港について満足している割合が前年度と比べて増加したことから、「順調」と判断。		
	28	⑧ ⑨ ⑩ ⑪	北九州空港航空貨物拠点化事業	空港企画課	北九州空港の将来ビジョンの柱の一つとして、九州・東九州・西中国3方向からの高速道路の結節点にある優位性を生かし、広域的な物流拠点空港を目指す。また、路線誘致、集貨、創貨、機能強化の取組を推進することにより貨物増を図り、貨物増がこれら取組を加速させる好循環を構築することで、物流拠点化の実現化を図る。	航空貨物取扱量 ※中期目標改訂 (R4年度目標設定時)	—	目標 30,000 †	実績 15,384 †	達成率 51.3 %	42,000† (R6年度)	167,195	531,900	540,138	19,200	順調	想定より貨物取扱量は少なかったが、前年度比42%と取扱量は大幅な増加となったため、「順調」と判断。		
	29	⑧ ⑨ ⑩ ⑪	北九州港集貨航路誘致事業	物流振興課	国内外の荷動きや物流事業について、企業訪問などにより情報収集を行うとともに、セミナーの開催や様々な媒体を利用したPR及び官民一体となったポートセールス活動などを通じて、北九州港への集貨・航路誘致を行う。	北九州港海上出入貨物取扱量	9,998万† (H23年)	目標 前年 (9,860万†) 比増加	実績 8,845 万†	達成率 89.7 %	10,900万† (R6年)	36,016	164,464	17,294	50,500	順調	船社や荷主企業に対する北九州港の利用促進に向けた情報提供やPR活動を地元の物流事業者と協働して実施した結果、海上出入貨物取扱量が前年度比8.9%増加したため、「順調」と判断。		
VII-3-(2)-③ 九州地域の空港の連携	30	⑧ ⑩ ⑪	【施策評価のみ】九州地域の空港の連携	空港企画課	【施策の内容】北九州空港の集客力と来訪者の回遊性を向上させるため、九州地域の各空港との連携強化を図る。	—	—	目標 —	実績 —	達成率 —	—	—	—	—	—	—	【評価理由】依然として新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、人の流れが回復に至っていないため、「やや遅れ」と判断。 【課題】今後の新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら、他空港との連携強化を行っていく必要がある。		新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら、引き続き近隣の他空港と連携して、北九州空港の利用促進活動を行っていく。